

第2回大野市生涯学習推進計画策委員会 議事録

日時：令和3年8月11日（水）19時～21時

場所：学びの里「めいりん」2階 洋室大

1 開会

出席委員10名、欠席委員1名

2 委員長あいさつ

- ・第1回の委員会では貴重なご意見をいただいた。委員の皆様には貴重な時間を割いてお越しいただいているので、なるべく多くの意見を吸い上げていきたいと考えている。
- ・本日は、計画の基本目標と名称まで進められたらと思うので、忌憚のない意見をいただきたい。

3 議事

(1) 報告事項

○内閣府世論調査、アンケート等について

(説明概要)

- ・本計画策定にあたって市民アンケートを実施しない代わりに、内閣府による生涯学習に関する世論調査と生涯学習・文化財保護課で過去に実施した事業で取ったアンケートにて、傾向やニーズ、課題を調査した。
- ・平成30年度実施の内閣府世論調査の結果について
 - ※過去1年間で学習したことがあると答えた割合は約60%、学習したことがないと答えた割合は約41%であり、学習したことがない割合は年代が上がるにつれて増加。
 - ※学習しなかった理由としては、「忙しい」「必要がない」「きっかけがつかめない」が大半。
 - ※これから学習したいと答えた割合は約82%であり、学習したことがあると答えた約58%より20%以上高い。
 - ※地域や社会での活動に参加したいかとの問いには、約80%が参加してみたいと答えている。
 - ※地域や社会での活動に参加するためには何が必要かとの問いには、「情報提供」「きっかけ作り」「成果の社会的評価」の順で割合が高い。
 - ※他市町でのアンケート結果を見ると、内閣府調査の割合と似た傾向にある。
- ・令和元年度実施の大野市総合計画アンケート調査結果について
 - ※地域づくりにおいて、公民館単位ではなく町内会や集落での活動を担う人材の確保・育成が重要との回答が多い。
 - ※「地域にリーダー的な存在や育成の場が必要」、「もっと大野の人が活躍できる場が増えるといい」との意見もあった。
- ・令和元年度人材活用事業のアンケート結果について
 - ※参加者の年齢層は、60歳以上が約69%であり、若い世代が少ない。
 - ※人材活用事業参加者計4,500人のうち、男性が1,160人（約26%）、女性が3,340人（約74%）と、女性が男性の3倍近い。

※指導希望内容としては健康に関する希望が多い。

※派遣実績は、登録指導者65名のうち42名（派遣回数延べ227回）であり、年間で一度も派遣実績がないメニューもある。

- ・令和元年度わく湧くお届け講座のアンケート結果について
 - ※参加者の年齢層は、60歳以上が約89%であり、若い世代が少ない。
 - ※80講座の登録のうち26講座（派遣回数延べ98回）の利用しかなく、登録講座の約68%は利用されなかった。
- ・令和元年度市民学校アンケート調査の結果について
 - ※女性の参加者が90%近い。
 - ※参加者の年齢層は60代～70代で80%以上を占める。
 - ※講座情報の取得方法は、「大野市報」「案内チラシ」の割合が多く、市ホームページは少ない。
 - ※講座の開催希望時間は、市民学校を平日に開催している関係からか、「平日の午前」「平日の午後」が多くを占める。
 - ※今後希望する講座の内容としては、「健康」「食育」「生活」に関することが多い。
- ・報告事項から見える課題は、前回示した骨子案で挙げた課題のいくつかに裏付けられる。
- ・情報が必要という回答が多いことから、どう情報提供していくか、いかに情報を行き渡らせるかが課題となる。
- ・忙しくて時間がない、特に必要がないという回答が多かったのは、生活の中で生涯学習の優先度が低いのではないかと考えられる。このことから、いかに生涯学習に触れる機会を増やして生涯学習に参加するきっかけを作るかが課題となる。
- ・市が実施した事業の参加者は高齢者が多いという傾向であり、いかに若い世代に参加してもらうか、どう目を向けさせるかが課題となる。
- ・内容が難しい講座、敬遠されがちな講座をどのようにPRするか。インターネット時代において、防災や防犯、人の命に関わるような生活に重要な学習をどう提供するかが課題となる。楽しく学べるよう内容を工夫することも重要である。
- ・地域づくり、地域活動を担う人材をどう育成するか、地域や団体が存続できなくなっている中でどう人材を確保して活動力を上げていくかが課題となる。
- ・この調査結果や第1回委員会で見えた課題を含めて計画骨子案を修正する。

（質疑応答）

委員：子どもが高校生になり、最近になって自分もようやく生涯学習の事業に参加できるようになってきた。ただ、先日行ったヨガは20歳以上という年齢制限があり、高校生の娘と一緒に連れていけなかった。子どもを高校から家まで送ってからヨガに参加しなければならなかったもので、一緒に参加できていたら良かったと思う。子どもが参加できるとすれば、午後7時半ぐらいまでは部活があるので、それ以降だと子どもや若い世代も参加しやすいのではないと思う。市民学校は平日の日中に実施されているが、受けてみたい内容であっても仕事があって参加できないため、実施時間について考えてもらえると、参加者が増えるのではないと思う。女性は夕食を作るし、男性は仕事から帰ってくるのが遅いということがあるので、そういった方に時間を合わせてもらえたらと思う。

SDGsについては、今、学校でも会社でもかなり習うものであり、若い世代はそれに向けて自分達がどうするという意見を持っているが、ある程度年齢を重ねた人には難しくて分かりにくいと思われがちなので、もう少し簡単なものにできないかと思う。

事務局：以前、他課で国民保護関係の講座メニューを作った時に、全国瞬時警報システムの「Jアラート」という言葉を使って「Jアラートってなんだろう」というタイトルにしたら、講座の申し込みが多く寄せられた。そのような工夫による引き付け方もある。

事務局：今の講座の開始時間を遅めに設定するという意見について、公民館で講座を開設するときには時間をどうするかという検討を必ずしている。ただ、どうしても同じ講座について時間帯をずらして同じタイミングでやることができず、開始時間の変更が効果あったのか無かったのかという検証がしづらい。毎年ヨガの講座をやっていて、一昨年は午後7時開始でやったが、去年はやはり女性の方が参加しづらいただろうということで午後7時半からで設定した。しかし、いつも参加されている方が多くて、時間を変更したことが良かったかどうかという検証ができなかった。このようなことから、どこかで検証したデータが具体的にあると、講座をする上で参考になると思う。いろいろ工夫はしているが、それがどれだけ効果があったのかというのをどう測るかというのは難しいと思っている。

委員長：年齢設定はするものなのか。

事務局：基本的に年齢設定はしていない。ただ、去年から講座を開催するときにどうしても新型コロナウイルス感染症のことがあって、参加者が多くなり「密」とならないよう参加枠を少なめにしている。ある程度参加者を絞るための手法の一つとして年齢設定を考えたことはある。実際にはなかなか何歳以上という設定はしづらいついて考えている。

委員長：親子で参加というのはいい手法かと思う。親が子どもを会場まで送るのであれば、併せて自分も参加しようということになる。

委員：男性が「仕事が忙しいため参加しない」という理由が挙がっていたが、講座を受けているのは地区の団体ばかりであり、いっその事、会社に生涯学習の講座を受けてもらえばいいのではないかと思う。自分の会社では月に1回会議があり、メーカーの会社に新しい商品の説明を受ける時間を設けるなどしている。魅力的な講座があれば会社の会議に取り入れ、そこに家族も来てもらえばいいというようにできるのではないかと思った。

事務局：企業でも活用していただければと思う。

委員：「Jアラートってなんだろう」というように、コピーをよくすることも重要だと思う。大野市がポスター展を実施した時に学んだ手法を、どんどん使えばいい。

委員：今ここに話が出ているのは、市が提供する講座や生涯学習だが、各団体が施設を借りて自分たちでするフラダンスだったり、卓球だったり、いろいろあるので、それらを忘れてはいけない。自分たちで活動している団体はかなりあるので、そういう団体をもっと盛り上がっていかればと思う。

委員長：本来はその方が理想なのかもしれない。すべて行政がやるのではなくて、ということ。

委員：内閣府の世論調査で「70歳以上では学習をしたいと思わない」という割合が顕著に高いのに対して、大野市では60代や70代の学習が非常に多いという、その辺の乖離は何なのかと考えたが、比率的に大野市の高齢者が多いのと、こういった講座を実施してもらっているから高いというのであれば、良い傾向ではないかと思う。「学習したい」という割

合が非常に高いというのは、おそらくどこの地域も同じなのだろうが、この「学習したい」ということにはいかに取り組むかというのが課題かと思う。どうしたら取り込めるかということを考えていかなければならない。先ほどの親子型というのも良いし、企業もうまく使っていければよい。広く声掛けが必要である。

(2) 協議事項

○生涯学習推進計画の骨子案について

(説明概要)

- ・前回示した骨子案のうち、今回は、空欄となっていた基本目標を協議願いたい。いろいろな課題がある中で、市の生涯学習が到達する目標として、望む姿、あるべき姿を一言で表現できたらと考えている。
- ・基本目標の事務局案として、大野市第六次総合計画の6つの基本目標のうち、生涯学習が最も関わる基本目標1のこども分野と基本目標5の地域づくり分野の目指す姿をもとに基本目標を掲げると骨子案には示しているが、これに拘らずに検討いただければよい。

(協議内容)

委員長：この先、生涯学習の取組を検討していくにあたって、まずは計画の基本目標を協議する。文章でもいいし、入れたいキーワードでもいいので意見を出していただければと思う。

委員：教育理念の中の「優しく、賢く、たくましい」というこの並びが個人的に好きなので、ぜひこのキーワードを入れたい。これが原点であり、すべてに通じていて、こういった人間を目指すという、まさにこの言葉が基本目標だと思っている。

委員：計画書は市民にオープンにするのか。自宅で調べたら、いろいろな市町村が計画を作っているが、見ていても自分の頭には入ってこない。今、ここで私たちが考えた計画を、市としては市民に対してどういった形でオープンにしようとしているのかを教えてほしい。

事務局：計画書は、他の市町と同じように冊子の形で作ることを考えている。市民に計画をお知らせすることと併せて、市が事業を進めていくにあたって基にするものなので、事業を実施するためにはしっかりと計画書を作っておかなければならない。なお、概要版ということで、A3の両面カラー印刷で全戸配布する予算を持っている。それをどう作るかということも非常に頭を悩ませることになるが、それを市民に示して、まずそれを取っ掛かりにして、生涯学習推進計画というのはどういう内容なのかなと、計画書を手にとっていただけたらと思っている。

委員：概要版は、児童・生徒に配るということもありなのか。学校で配られて、子どもが帰ってくると親も見る。

事務局：庁内で印刷することができるので、学校に協力してもらって印刷物を児童・生徒に配布することはできる。概要版というのは家庭に配るものを想定しているので、子どもに配るとなるとさらに噛み砕いたものにする工夫が必要だと思う。配布するプリント等にQRコードを付けて、子ども親にも読んでもらえるように誘導するという手もある。活用についても考えていかなければならないということを含めて計画を策定していきたい。

事務局：(基本目標の参考として案を提示)

他の自治体の計画を見てみると、基本目標であったり基本理念であったり、後ろに基本方針が付いていたり、キャッチフレーズであったりといろいろなやり方がある。

委員長：委員の今までの意見では、複数挙げるのではなく一つとし、なおかつ比較的シンプルな目標あるいは理念がいいのではないかということである。

委員：第六次総合計画の時も将来像と6つの基本目標を決めるのに3回、4回と協議した。やはりいろいろなワードがあって、これがいいというものをつなげていながら作るものだと考える。

委員：具体的に施策の内容をここに盛り込めたらという話もあったが、私は「優しく、賢く、たくましい」という言葉はいいと思う。タイトルに大野市生涯学習推進計画という形で表示されるとやはり拒否反応を示されると思う。そうだとしたら「優しく、賢く、たくましい」に米印をして大野市教育理念から抜粋と書いて、目標も基本的にこの3つの言葉を使った方が、「何のためにやるのか、このためにやるのか」ということが伝わっていいのではないかと思う。

委員：案に「優しく、賢く、たくましい大野人」を付けて人生100年につなげてはどうか。「大野人」という言葉は大野市の人しか使わない。生まれてから亡くなる時までの人生100年、生涯学習は子どもだけでなく寝たきりの人まで学習できればと思う。

委員：「人生100年時代」と「生涯イキイキ」はいいと思うが、すごく高齢の方向けという感じがする。高校生や20代の人たちに人生100年時代といってもピンとこず、自分達には関係ないと思われるのではないかと思う。若い人を取り込みたいというワードではない気がする。

委員：「生涯」と言葉の意味が重なっているところもあり、また「人生100年時代」という言葉がこれからずっと生きる言葉かというのも不安なところ。もしかすると今だけのことかもしれない。

委員：以前、市が地域づくりのことで地区を回っている時に、「結のまち」という言葉を使っていたが、それは「結の故郷」ではないかと指摘したことがある。「結の故郷」という言葉は大事にしなければならないのではないかと思っているので、「結のまち」を「結の故郷」に置き換えてもいい気がする。私は大事にしたい大野のイメージである。

委員：「学べる」だと行政が提供しますよというイメージが付いてしまう。「学ぶ」だと主体的に自ら学ぶという意味合いになるので「学ぶ」の方がふさわしいのではないか。

事務局：第1回目の委員会での生涯学習は何かというところで、学校教育もあれば社会教育もある、個人の学習もあるということで、それを考慮すると主体的にということは重要になる。

委員：「イキイキワクワク」という部分はどう思うか。そのコピーが重要なのではないか。

委員：第六次総合計画でもワクワクやイキイキというカタカナの表記が緩くて良いという意見が出たが、結局皆で議論して最終的になくなってしまった。

委員：漢字にすると固い感じがするし、若年層に訴えるにあたって「湧く」という字は難しすぎるかもしれない。

教育長：「いきいき」は母音から始まるので言いやすい。先ほど委員の発言の中に「主体性」のことがあった。家庭教育や学校教育、社会教育には教育が付くが、生涯学習には教育が付かない。教育というと教える者と学ぶ者がいるが、学習というと自分で学ぶということなの

で、これがうまく皆さんに通じるようになればと思う。

(基本目標を仮決定)

- 委員：今回はこれで仮決定としておき、次の委員会までの間、少し冷ましてからもう一度考えてもよい。第六次総合計画でも将来像の「結のまち」の部分だけでもかなり手間が掛かっている。この4文字だけでも相当な議論があったので、もう一度時間をおいて考えてもよい。
- 委員長：今日のところは、協議した内容で仮決定し、次回もう一度協議することとする。次に計画の名称について協議を進める。
- 事務局：計画名を協議するにあたって、前回、生涯学習という言葉を変えられないかという意見があり、事務局としては、「この計画の名称が生涯学習の計画であることが市民に伝わるものであれば、生涯学習という言葉を取ってもこの委員会で検討したものとして説明できる」と回答したが、検討いただいたタイトルの下段にでも生涯学習推進計画という言葉を入れたいというのが事務局の思いである。表紙のタイトルで目を引き付けて、下を見たら、生涯学習の計画であることが分かるようにしたい。
- 委員長：名称として何か案があれば出していただきたい。
- 事務局：(名称の参考として事務局案を提示)
他市では、基本目標を表に出してその下に計画名を入れているところもある。計画書を生涯学習推進計画と表示するだけにして概要版でガラッとイメージを変えているところもある(他市の計画書を何例か参考に提示)。
- 委員：基本目標と生涯学習推進計画を並べてみてはどうか。
- 委員長：他の市町では、生涯学習推進計画をタイトルにして副題を載せているイメージが多いが、あくまで大野市の計画の名称は、生涯学習推進計画となるのか。
- 事務局：計画名はそうであるが、計画の表紙は引き付ける工夫をしたい。
- 委員：第六次総合計画と同じく丸ゴシックで表記するとどうなるか。表紙に大野丸を入れてはどうか。めいりん塾の写真やうぐピー、ゆいピーのイラストを入れてもいいかと思う。
- 委員：第六次総合計画の概要版は、うぐピーを表示している。最初、キャラクターが重要だという話になり、うぐピーが計画の内容を説明する形になっている。
- 事務局：近年、市で作る計画にはSDGsの帯を付けることとしている。総合計画は全ての色が入っているが、生涯学習推進計画は関連する分野が「4. 質の高い教育をみんなに」になるので赤系の色となる。基本目標と同じく、計画の名称に関してもこれから計画を作っていく過程で変更すべきとの意見もあるかと思うので、最後の計画策定までに決めていただければよい。
- 委員長：計画表紙のタイトルについては、基本目標を挙げることで決定することとし、次回までに委員の中で他にあれば提案願いたい。次回、事務局の方では大野丸やキャラクターを入れたイメージを作って提示すること。また、第六次総合計画で「結の故郷」であるところを「結のまち」にした経緯について確認しておくこと。

(その他)

事務局：次回開催は9月末に予定しているのでお願いしたい。

教育長：次回のメインの協議事項は何か。

事務局：施策体系と施策案を事前にお示しして、ご検討いただくことを考えている。

委員：本日の最初の説明に30分ほど掛かっていた。事前に資料をもらって目を通しておいて、事務局がポイントを絞って5分ぐらいで説明を終えていけば、もう少し協議ができたかと思う。次に何のために集まるのか事前に資料を読み込んでくると、その場で資料を見て考えるのでは違ってくるので対応願いたい。

事務局：事前に資料を送付するのでよろしく願いたい。

4 閉会

副委員長：先日オリンピックが終わったが、自分はスポーツが大好きなものでテレビにかじり付いて見ていた。オリンピックの期間中、私たちは夢を見させてもらっていた気がする。しかし、現実に戻れば県の新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発出されており、非常に厳しい中にある。その中であって我々は計画策定委員会を重ねているということで、コロナ禍だからこそその発想や意識の転換により、より良い計画を作っていきたいので、引き続き協力願いたい。